

[ここに入力]

シリアの桜の話は、小松由佳さんの「シリア取材」の記事（新聞64号）が縁で、読者の方から佐藤さんを紹介していただきました。不思議なご縁で佐藤さんもこの近くに住んでいます。東京新聞にも戦禍で残った1本桜を紹介しています。

紅葉台



新聞

第78号

2023年
5月20日

発行人：関谷 孝

シリアで桜を植えたお話

佐藤義隆

40年ほど前、JICAの研修員として来日していたシリア人と知り合いました。彼を通してシリアに興味を持った私は、翌年シリアに出かけ路線バスを乗り継いで国内1周8日間の旅をしました。出会った人たちはみなとてもやさしく、治安は大変良く、壮大な遺跡もたくさんあり「シリアって、何て素晴らしい国なのだろう！日本にシリアをいつか紹介したい」と思いました。

次にシリアを訪れたのは20年後で、シリアの素晴らしさを一層強く感じました。日本通のシリア人と雑談していた時「シリアに桜があればいいなあ」という話になりました。桜は日本を代表する花です。桜を通しての交流は両国の親善を深めていくことと思われまふ。そこで是非、シリアに桜を植えようということになり、私は帰国してその実現のために親善協会を作り奔走しました。しかし日本の人々はシリアについてほとんど関心を示しませんでした。ところが東京新聞がシリアの桜植樹計画を記事にしてくれました（記事1）。この記事の効果は大変大きく、桜植樹ツアー実現に漕ぎ着けることが出来ました。日本からは参加者12名で、100本の苗木を持って10日間の予定で出かけました。行きました。シリア側は、JICA研修生OB会が中心になって農業大臣、環境大臣もメンバーに加わり、一般市民と共にシリアの10箇所に新聞やテレビの取材を受けながら植樹しました。無事帰国した1週間後にシリアに内戦が突如勃発。その理由はシリア人たちにも私たちにも全く理解できないものでした。内戦は激しくなるばかりで、シリアに植えた桜は全滅したと聞きました。協会の活動は平和になってからということにし、休止しました。ところがメディアはシリアの桜がどうなったのか関心があるようで、NHKTV「これでわかった世界のいま」に取り上げられ、東京新聞は独自に調査して1本だけホムス市内に残っていることを見つけ出し、記事にしてくれました（記事2）。その写真を見ると木はやせ細り、害虫が群がり瀕死の状態でした。東京新聞の記者が管理人にその木の由来を話すと、管理人は「それなら私が面倒を見よう」と言ってくれ、1年後に東京新聞はその記事と写真を掲載してくれました（写真3）。写真の桜は健やかに育ち花を咲かせ、その横に管理人の素敵な笑顔がありました。私は何度も写真を見ているうちに管理人に会いたくなりました。しかしシリアは内戦中です。外務省渡航情報はレベル4で、行ってはいけない国になっています。ダマスカスの友人に連絡すると、シリアはもう安全だから来ても大丈夫だという。

半信半疑のまま苗木50本を持って一人で出かけました。空港が使えないので、レバノンから陸路でした。賑紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

やかなベイрут市内を抜け、いくつもの検問所を経てシリアに入ると、そこには穏やかに広がった以前と変わらぬシリアがありました。今回もJICA研修OB会の人たちが中心になり、農業大臣やダマスカス市長も加わり、市内5箇所とホムス市に、現地の人たちと共に植樹しました。ホムスでは管理人にお礼を言うことが出来ました。シリアは国外では悲惨な難民問題を抱えている国です。その様な状況下で桜を植えることは齟齬を買うのではないかと心配しました。しかしそれは杞憂でした。国内で生活をしている人たちは、美しいシリアを取り戻したいと願っている様です。自主的な環境整備グループもいくつかあり、それらの会とも一緒に桜を植えました。シリアは欧米による経済制裁下にあり外国人をほとんど見かけません。シリアの人たちにとって、自分達は世界から忘れられているのではないかと、という思いがあると思われます。私が桜を植えていた時、利発そうな少年が来て「シリアに来てくれてどうもありがとう」と言って、握っていたジャスミンの白い花を私にくれました。私は、シリアの人たちは私たちが来たことを喜んでくれているのだと知り、思わず胸が熱くなりました。

何年か経ってシリアに桜の花が咲くと、みなさんはシリアの花見の様子を新聞などでご覧になる機会があると思います。そのとき、その桜にはこの様な経緯があったことを思い出していただくと嬉しいですよ。

(参考 HP「日本シリア親善協会」)

粕谷和夫の観察日記 オキナグサ



上の写真は、2023.4.27相模原市の藤野。下は、2021.3.16八王子市の裏高尾で撮ったものです。暗赤紫色の花が白く長い綿毛がある果実の集まったオキナ(翁)に変身した姿です。

♥翁草は、花が開いた後にふさふさと綿毛のようなものが出来るので、白頭草ともいうようです。名前の由来が花と重なってよくわかりました。それにしても風情のある花ですね。風にそよぐ様子はなかなか趣があります。



イワウチワ(岩団扇)

4月19日に都民の森三頭山麓の森林セラピーロードでオオルリのさえずりを聞き、その後少し急な山道を登ったところに咲いていました。花は薄紅色で、直径3cmほどの清楚な感じ、この花に出合って疲れが一挙に解消です。花形が団扇に似ていることに由来すると図鑑に書いてあります。

♥お宝のような珍しい花ですね。絶滅危惧種になっています。白くて清楚な花に心癒されるのがよくわかります。